



音更川（幌加地域）でのオショロコマ釣り

▼活動の目的

大雪山国立公園が面積の7割を占める上士幌町。その中を流れる山岳溪流にはオショロコマ（カラフトイワナ）が生息し、良質の水質が保たれています。今回この活動において、地元の小規模複式校の高学年を対象にオショロコマの生態調査とその生息地である河川の環境調査を行い、その生態的特徴と河川をとりまく環境との生態的なつながりに気づきを得られるように指導を行い、河川を取り巻く生態系をつなぐをオショロコマを通して理解することを目的としています。また、自分の暮らす地域の自然資源の価値を理解できるように促すことも目的としています。



▼活動の内容

1. オショロコマを捕まえよう

現地にて集合した後、川での活動の注意事項の説明。川に入って魚を捕まえるための方法を指導。実際に川に入り、オショロコマの観察と様々な方法で捕獲を試みる。捕まえたオショロコマを観察すると同時にどのような川の物理的環境で捕まえられたのかを確認させる。捕まえた魚を次回の学習に活かすために持ち帰り終了

2. オショロコマを調べよう

前回の学習で捕まえたオショロコマを活かしてワークシートを用い、オショロコマの体や生態の特徴を調べ学習しました。ワークシートの1・3・5を中心に行い、3・5ではオショロコマという魚についての知識学習、1では外見的特徴とその意味、そして食性を調べることで生態についての理解を高めました。

3. オショロコマをまとめよう

前回使用したワークシートを用いてオショロコマの暮らす場所の物理的特徴を考えました。

▼活動の効果

参加した児童にとって釣りの体験や川で遊ぶ体験を提供できたことは、地元の自然の中で遊ぶことの楽しさを、素晴らしさを知るよい機会となった。

川に暮らす魚が予想以上に陸生落下昆虫を捕食している事実を目の当たりにして、川の周りにおける自然環境がとても大事であることへのきづきを与えられた。

よく釣れるポイントの指導つながりで、川の物理的形狀としての「瀬」「淵」の関係とそれがどうして出来るのかということが理解できた。

「淵」を好んでオショロコマが暮らす（よく釣れた）事実から淵がない河川はオショロコマにとって致命的な物理的環境であることを理解してもらえた。

魚が暮らすためには、水質、河川の物理的環境、周辺環境の生態的なつながりそれらが十分に機能していないといけないという事が理解できた。

雨天で2回中止となったが小規模複式校同士による合同学習の機会を提供でき、児童間の交流も生まれた。

自然豊かな地域、そして小規模校ならではの理科学習プログラムとして学校から評価を得られた。

地元の河川がかなり良質であり、もし今後河川開発が行なわれたらどのような可能性があるか考えられる下地を児童が持つ事ができた。

当初予定に無かった地元中学校の理科学習に「オショロコマの調べ学習」の要望が発生した。時間的都合もあり のオショロコマの生態学習を中心として行なった。

▼苦勞した点・反省点

天候の影響を受け予定日中止 延期となるケースが2回発生したため、学校カリキュラムとの調整が難航した

2校については日程的余裕が無くなり、 の実体験を重視したため の調べ学習が1回しか出来なかった。

